

# 秋の全国火災予防運動

## 11月26日から12月2日

### 6分に一件火災発生(全国)



六分に一件の割合で火災が発生し、一日に六人が焼死、二十七人が負傷——これが一月から六月までの火災発生ペースです。(全国)

県内でも、今年上半年の出火件数は六百八十一件で、前年同期に較べると百五十件も増加しています。死者数も六十人と史上最悪であった四十八年の年間死者数をなんと四十五人も上回っており、憂慮すべき事態となっています。

本町では、十月十五日現在、すでに九件の火災が発生し、一千九百五十一万円が灰になっています。これから冬季に向い、暖房器具等

### たばこ

## ポイと投げ捨てが一番危険!!

「たばこの一本ぐらいたいたことないだろう」と思わないうまでも、ポイと投げ捨てた経験をお持ちの方も多いいと思います。しかし、火災防止の上では、たばこの投げ捨てが一番くせものなのです。

「ここ三、四年は減少しているものの、たばこによる火災は、毎年火災原因のトップにあり、昭和五十一年の損害額は、百七億円にものぼっています。

これを一日当たりで見ると、毎日約二十四件発生し、三千万円が灰になっていることなのです。

防には万全を尽し、火気の取扱いには十分注意してください。

「もったいない話です。このようなたばこによる火災の六割は「投げ捨て」から発生しています。次いで、灰皿などのふちに置いた「すいかけが落ちて出火」したのが一四%「消し忘れ」が一〇%となっています。また、たばこによる林野火災も多く、ハイキングなどに行き、つい気持が軽やかになり、たばこの一本ぐらいという軽率な行動の結果です。

たばこの投げ捨てはしない、歩行中の喫煙はしない、寝たばこはしない——この三原則を喫煙者は必ず守りましょう。



### 【家庭の医療】

## 鼻血の応急処置

病氣以外のときに出る鼻血——何かにつけたり、強いかみすぎたりしたとき出るのは、鼻の中にキズがつくことが原因です。鼻血を出したときの応急処置は、次のようにしてください。

《軽い鼻血のとき》

衣服をゆるめ、楽にしているにかけさせて、頭をうしろに倒させ鼻を五、六分つまんでやると止まります。また、脱脂綿や消毒したガーゼを長さ二、三センチの太目の棒状にして、鼻につめておくのも効果的です。

《幼児の鼻血》

いすに腰かけさせ、両ひじを机の上につかせて、あごを手のひらで支えるようにします。その両手の小指で、しばらく鼻を押さえながら、口で呼吸させると、やがて止まります。

《なかなか止まらないとき》

消毒ガーゼを少し多めに鼻に詰めこみ、あお向けに寝かせ、しばらく安静にしておきます。そして鼻柱を冷たいタオルでひやし、逆に足もとを温めるようにします。鼻血が止まったあとも、数時間は、鼻をかまないように注意してください。

《頭を打って鼻血が出たとき》

この場合は「危険信号」と考え、すぐ医者にみてもらいましょう。

### 納税意識高揚標語募集

## 金賞に佐久間ゆきさん

町では、納税の重要性を青少年から正しく理解してもらおうと中学生を対象とした、標語の募集を行ったところ、佐久間ゆきさん(三年)の「税金を納めて住みよいふる里黒埼」が金賞に輝きました。これは、地方自治体をとわず、財政基盤の強化・確立が重要視されている現在、町民の税に対する啓蒙、意識の高揚を図ろうというものです。

今回、中学三年生を対象に行い、厳重審査の結果、次のとおり

◎入選作品、入選者は次のとおりです。(敬称略)

○金賞 佐久間ゆき  
「税金を納めて住みよいふる里黒埼」

○銀賞 笹川裕子  
「税金の意義を知ること価値ある心」

○銅賞 前田芳昭  
「税金でみんなで築くよい郷土」

○佳作  
「見直そう暮らした税金の力」 小林聡子  
「税金を納めて豊かな町づくり」 元島滋美  
「税金で住みよい郷土豊かな社会」 富岡孝子

「税金で明るく豊かな国づくり」 白井佐智子  
「税金を納めて守る豊かな暮らし」 六戸功一

昭和五十二年度入権擁護啓蒙普及活動として町では黒埼中学校生徒から人権擁護作文・書道を募集多数の応募作品の中から、次の作品が入選し、十一月三日の文化祭に立派な力作を展示すると共に、四日黒中体育館で表彰式が行われ町長から次の入選者に賞状と賞品が贈られました。

尚さきに本紙でお知らせ致しました「人権標語」入選者の表彰式も併せて行われました。

○人権擁護標語 (一般の部)  
優秀賞 小林 弘・岡田ヨシミ  
○作文の部  
優秀賞

◎小野由美子・梅山美奈子  
富岡 孝子・渡辺 修也  
青山 忠・大関 賢子  
小山 里美・影山 要介  
高野 朋子・内藤 千晴



代表者に町長から、賞状と賞品が

安藤 重夫・外 十名  
○書道の部  
優秀賞  
◎滝沢千賀子・青木美穂子  
小林由喜乃・本間 理恵  
源川あけみ・浅妻ゆかり  
佐藤 クミ・大橋 浩美  
長谷川美幸・山田裕美子

### 郵便局から

#### 年賀状は 十二月十五日から受付

年賀状は十二月十五日から受け付けます。住所録の整理印刷などを早めにすませ、十二月二十日までに出すように。あて名はくわしく

はつきりと  
番地はもちろん、〇〇荘内  
「〇〇様方」団地あては「棟」  
「室」番号も忘れずに。また郵便番号は記入わく内に、正しくはつきりと記入のこと。

出すときは  
○ご自分の住所の郵便番号と同一のもの  
○県内  
○県外  
等、方面別に束ねて出すように、また、お年玉つき年賀はがき以外のはがきで出すときは、表面に「年賀」と朱書のこと。

小包の包装は  
しっかりと  
短期間に多量の贈答用小包が差し出されるので「包装はしっかりと」、水気のある物などは丈夫なポリ袋などに入れて、外装は強いダンボールでまた「荷札は必ず二枚」つけるように。

十二月十日  
十二月十七日 の日曜日に  
年賀状を書きましよう。



町長から記念メダルを受ける入賞者

## 人権擁護作品では 作文・書道に 優秀賞20点